

1 幼稚園の教育目標

教育目標 豊かな心とたくましい体を持った子

- ・子ども理解に努め、一人一人の発達特性や個に応じた指導をする。
- ・遊びをひろげ、深める環境を構成する。
- ・社会の変化や地域の要請に応え、保護者との連携を密にして保育を進める。
- ・小学校教育との結びつきを図るため、地域の小学校との連携を進める。

重点目標 思いやりのある子 がんばりのきく子 挨拶のできる子

- ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を送ろうとする態度を育てる。
- ・他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て人と関わり合う力を養う。
- ・自分の思いを言葉で表現しようとしたり相手の話す言葉を聞こうとしたりする態度を育て、言葉に対する感覚や言葉による表現力を養う。
- ・感じたことや考えた事を様々な方法で表現する事により、豊かな感性や表現力を養う。
- ・周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ち、知ろうとしたりかかわりを深めたりしようとする態度を養う。
- ・教員が、一人一人の幼児との間に愛情と信頼の関係を築くとともに、幼児の心が開く接し方に心がけ、幼児の伸びようと姿を支えていく。

2 評価項目の達成及び取組状況 (評価 A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが成果がやや足りない D：取り組みが不十分である)

(1) 指導領域の評価

評価の項目と主な観点	評価	評価の理由(成果や課題・改善策)	関係者評価
① 健康安全・体力の向上 ・朝の持久走や運動遊び等による体力や運動能力の向上 ・健康で安全な生活をしようとする態度や習慣 ・様々な食べ物に興味を持ち進んで食べようとする意欲	A	・体力の向上は、重点目標でもあり職員の意識も高い。 ・朝のマラソン体操は、継続的に実施することができた。また、終わった後も走る学年も増えた。 ・栗ちゃん先生が指導する運動遊びが定着・充実してきた。その結果、園児の意欲や自信につながり、保護者の保育への評価も 97%と高評価であった。しかし、子どもにその成果が表れているかという設問では 84%であった。指導が体力の向上という成果に表れるよう改善が求められる。 ・給食指導では「給食カード」などを活用したため、がんばって食べようとする園児が増えた。しかし、家庭との連携が大切である。 ・給食では保護者の自園給食の要求が高い。	A
② 人間関係・自立心 ・ものごとの善悪や決まりの大切さに気付いて行動する態度 ・友達の気持ちを大切にしようとする態度 ・人とかかわる楽しさを感じ、一緒にやろうとする態度	A	・昨年度より5ポイント上がった。本園は行事を通して子どもを育てているが、とくに運動会や発表会では、友だちと協力することの大切さを学び、よりより人間関係ができたことが評価されたと考える。 ・自由遊び、散歩、マーチング、バルーンなど縦割り活動を行うこと通して、友だちを思いやる姿が多く見られた。 ・何件か物隠しやトラブルもあるため、繰り返し指導していかなければならない。	A
③ 言葉 ・自分の思いを言葉で伝えようとする態度と力 ・話を聞こうとする意欲や態度 ・読み聞かせを楽しむ	A	・子ども達は、英語や読み聞かせは大好きでとても楽しんで取り組んでいる。 ・英語では、生活のなかで英単語が出てくるようになってきた。また、東京オリンピックという話題もあり、国旗に興味を持つ子どもも出てきた。 ・日々の忙しさに追われ、サイバードリーム時間が取れないことも多い。 ・自分の思いは積極的に表現することはできるが、話を最後まで聞くことは苦手な子どもも多い。	A
④ 表現 ・活動に興味や関心を持って取り組み心を動かされる姿 ・自分の思いを自分の方法で楽しみながら表現する喜び	A	・昨年度より6ポイント上がった。絵画造形や表現遊びを通して、発達段階に応じて子ども達に自由に楽しんで表現させることができた。 ・今年は廃材を積極的に利用し、子どもに自由な発想で制作させた。 ・「はごろも夢講演会」で大道芸を企画した。今後も演劇など表現する楽しさを子どもに提供していく。	A

<p>⑤ 環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内外の動植物に興味関心を持って接しようとする態度 ・野菜や花の成長を喜び、世話をしようとする態度 ・環境とかかわって遊んだり遊びをつなげたりする態度 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より5ポイント上がった。街中にあり自然環境は少ないが、子ども達が触れ合えるよう保育者が環境を工夫してきた。 ・オタマジャクシ、バッタや昆虫図鑑など意図的に子ども達の身近に置いたため、見て触れるなど効果があった。 ・校地内で拾ったドングリや落ち葉などを制作に結びつけ興味関心を高めた。 ・玄関に川魚やエビを入れた水槽を置いたことで、多くの子ども達が観察するようになった。 ・園外保育（散歩）を昨年度より多く計画できたが、まだ足りない面もある。 	A
--	---	--	---

(2) 園の重点目標や活動についての評価

<p>1 がんばりのきく子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難なことがあっても最後までやり遂げようとする姿 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より2ポイント上がった。昨年度より朝のマラソン体操や栗林先生の運動遊びの時間を確保したことが大きい。保護者の評価も97%と高い。 ・朝のマラソン体操だけでなく、その後もグランドを走るなどしてきた。 ・栗ちゃん先生の体操教室も充実してきている。 ・給食指導では、給食カードを活用したりして成果が表れているが、うちだ給食より味が落ちてるため評価は低い。 	A
<p>2 思いやりのある子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のことを気遣い友達の気持ちを考えて行動する姿 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育やマーチング、バルーン、お買い物ごっこなど縦割り活動を効果的に行ってきたため、子ども達の間関係が良好になってきている。 ・満3才児がいるおかげで、年少児が小さな子に対して優しく接している姿を何度も見かけるようになった。 ・物隠しや友だち関係でのトラブルはあるので、今後も注意していきたい。 	A
<p>3 あいさつのできる子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から挨拶したり挨拶されたら挨拶を返したりする姿 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より8ポイント上がった。 ・園外保育に出かけた時も、地域の方にあいさつしている子ども達の姿を見ることが多い。 ・個人差はあるが、挨拶ができる子が増えてきている。しかし、保護者の協力も不可欠で、家庭と連携しながら指導を進めていくことが大切である。 	A
<p>4 行事の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事での園児の姿、行事の計画・運営等の評価 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より6ポイント上がった。 ・発表会では、年中で内容を変えたことにより保護者から高評価であった。また、年少では発表会後も互いにダンスを踊る合ったり、他のクラスのダンスを踊ったりして大変意欲的な発表会となった。 ・運動会をはじめ様々な行事に、子ども達は積極的に取り組んでいた。 	A
<p>5 個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の理解に努めそれに応じた指導ができたか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる子について職員間で情報を共有できており、チーム保育が根付いている。 ・朝の打ち合わせ終礼で子どもの情報を共有している。また、ノートを活用し補助の先生にも共有してもらおうようになってきたことが成果につながっている。 ・発達障害を持つ園児が増えてきた現状を考慮し、特別支援教育の研修をしていく必要がある。 	A
<p>6 地域の施設や人材、自然を生かした指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域理解に努め地域を生かす指導ができたか 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本園の課題であったが、昨年度より8ポイント上がった。 ・年少、満3才は例年以上に園外保育を行うことができた。しかし、年長はマーチングの指導があるため、なかなか園外に出かけることができなかった。 ・英語も導入され、やるが多くなってきている中で、園外保育を計画す 	B

7 保護者への対応や連携 ・保護者への連絡や対応、連携が適切であったか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より7ポイント上がった。 ・子どもの送迎方法はドライブスルーが定着してきているので、担任は意図的に保護者と連絡をとるようにしてきた。 	A
8 園内研究や研修の推進 ・指導力や保護者への対応力向上等の研修ができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より8ポイント上がった。 ・本年度は1月に初任者研修会の会場になった関係で、継続的に研修を行い、意識を高めることができた。 ・若手が増えていくので、保育研修は大切になっていく。来年度は絵画の研修を実施していきたい。 	B
9 校務分掌の適切さ ・仕事量と人数が適切で効果的な分掌となっていたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児、満3歳児が大幅に増えてきたため、それに伴う業務が多くなり、負担が増えた。 ・若手教員が増えてきた関係もあるが、帰りの時間が遅くなり始めている。 ・チーム力が求められるため、引き続き全体会、主任会の充実を図る。 	B
10 魅力ある園づくり ・就園先として選択される園づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より7ポイント上がった。 ・運動（げんきっこ）、英語、マーチング、発表会という柱ができた。 ・満3歳児に加え、2歳児の一時預かりを始めたことにより入園の問い合わせが大変多くなった。（比例して事務量も増えたが） ・英語（サイバードリーム）について保護者から高い評価を受けている。 ・預かり棟ができ魅力も増えた。 ・課外の教室が運動、英語、ピアノの3つあり、充実してきた。 ・保護者が求めるニーズは何かを把握し、それに答えることが魅力ある園づくりとなると考える。 	A

4 評価の具体的目標や評価の総合的な評価結果

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による自己評価ではほぼ全ての項目で昨年度の評価を上回ることができた。保護者による評価もほとんどの項目で90%前後という高い評価をいただいた。 ・「がんばりのきく子」については、朝のマラソン体操の継続的な取り組み、課内体操教室の充実、運動会・発表会などの行事を通して、子ども達が挑戦したり、やり抜いたりする姿が多く見られ、大きく成果を上げた。 ・「思いやりのある子」については、縦割り活動、自由遊びの中で年齢の差を超えて園児同士が優しく声を掛け合ったり、思いやる光景が随所に見られた。また、日常的な保育者の1人1人の子どもに対しての声かけが大きく成果をあげている。 ・「あいさつのできる子」については、まだまだ個人差はあるが、自分から挨拶する子どもも増えてきた。今後も継続指導していきたい。 ・昨年度から英語（ALTによる英語教室、サイバードリーム）に取り組んだ。園児の興味関心は大変大きく、保護者からの評価も高い。しかし、行事に追われることもありサイバードリームの取り組みができない時期があった。保護者からの要望も強いことから次年度の取り組みの改善が求められる。 ・昨年度は満3歳児を実施し、本年度は2歳児の預かりを実施した。H29：13名、H30：28名と倍増した。H31は33名が決定、4名が保留と更に増加した。保護者にニーズと提供している保育が合致していることが要因と思われる。さらなる改善を進めていきたい。 ・近隣保育園との連携が2年目となった。本年度は運動会、発表会だけでなく「はごろも夢講演会」にも招待したことにより、連携園からの入園希望が増えた。園児確保のためにも今後も連携を深めていきたい。